



●国際カラーディ (ICD) のご案内

日本色彩学会は、本年も「インターナショナル・カラー・デイ (ICD)」を開催いたします。ICD は AIC (国際色彩学会) が提唱する色彩記念日で、毎年 AIC 加盟各国で様々なイベントが開催されています。

【開催日時】 2024 年 3 月 20 日 (水・祝)

13 時～15 時半 ※オンライン開催

【参加費】 色彩学会会員：2,000 円。

【開催内容】※敬称略

◆ICD の趣旨説明と各国の取り組み

日本色彩学会 堀内隆彦会長

◆『MIC (Most Impressive Color) 2023』

授賞式

◆第 6 回 ICD 特別企画：『脳科学と色彩』

◎講演『脳で感じる色彩 ～色彩の脳過程の理解と最新動向～』

山本洋紀 (京都大学大学院人間・環境学研究所 助教)

◎講演『airCloset(エアークローゼット) のファッション体験～AI へのデータ蓄積とスタイリング動向～』

前川祐介 (株式会社エアークローゼット 取締役副社長)

◆申込は下記のニュースから。

(学会メールニュース No.493 から引用)

●色、回想：色彩学から仕事へ

色で温度を測定するので色温度計と言い、金属等の高温領域を非接触で測定する方法が考えられました。

放射率 (黒体放射と比較したときのエネルギー放射量比 = 明るさ) が違って、高温金属の「色」が黒体放射に近似できることから色の測定で温度を測ります。簡単な構造では、タングステンフィラメントを加熱し電流量と色 (温度) の相関を校正して、望遠鏡で高温物体を見ながら視野中のフィラメントの色を合わせて温度を求めます。肉眼で見て測定します。黒体放射は、温度で波長毎のエネルギー量が判っています。4,000 度程度までは可視光範囲での波長分布が単純な右肩上がりに見え、温度と色が波長毎の分布傾斜に依存するとして離れた 2 波長のエネルギー比で 2 色 (青、赤フィルター) 式自動温度計が開発されました。

明るさを無視出来るので窓越しや煙越しでも測定可能となります。炎の様に明るさが変動する場合も高速応答と積分でかなり安定できます。1,000 V 以上の高電圧を扱う光電子増倍管ですが高感度、ワイドダイナミックレンジ、高速応答で連続測定でき鉄鋼等の現場で日常管理に使われました。 (小川 梓)

●万葉集のなかの色 -4

奈良時代に編纂された万葉集は、万葉仮名を用いて書かれている。万葉仮名とは漢字の読みの音を用いて表記する方法である。裏仮名とも言われる。平安時代に、女の使う文字ができ、女手と言われ、平仮名、女文字とも呼ばれた。漢字は男文字である。

神山に たなびく雲の 青雲の

星離れ行き 月を離れて

太政天皇 (陰陽師の代作) (巻 2-161)

あかねさす 日は照らせれど ぬばたまの
夜渡る月の 隠らく惜しも

柿本朝臣人麿 (巻 2-169)

秋山の 黄葉を茂み 迷いひぬる

妹を求めむ 山道知らずも

柿本朝臣人麿 (巻 2-208)

黄葉の 散りゆくなへに 玉梓の

使いを見れば 逢いし日思ほゆ

柿本朝臣人麿 (巻 2-208)

青雲はどんな色の雲だろうか? 「青雲の志」というが、青みを帯びた雲か、よく晴れた高い空か。あかねは茜色。ぬばたまはヒオウギの種で黒・夜の枕詞。黄葉は「もみちば」と読む。紅葉を使っていないのは、もみじは黄色であった証にもなる。玉梓は手紙のこと。

(* 講談社文庫・中西進・万葉集から 永田泰弘)